

小田急線

2012年夏号

発行者
池島 晴輝

お仕事新聞

電車を安全に走らせるために大切な人々



小田急線8000形ホームの安全を見守る車掌さんの姿

ぼくは、小さい頃から電車が大好きです。そして、お家の近くには電車の線路が通っていることでも、電車の写真を撮るの近くで撮るのが、楽しいの1つです。先日、お家の近くに作業服を着たおじさんがいるのを見ました。電車は、運転士さんとは、違うと思っていましたが、電車を安全に走らせるためには、沢山の人の力が必要なのではないかと考え、調べてみました。

駅係員



切符や定期券の発売や改札口で乗客の案内、行き先案内をする。ホームでは乗降客が電車とぶつからないように安全をたかめる仕事をしている。毎朝利用する沢山の人が気持ちよく駅を利用してもらえるように努めている。

ホームで見かける旗をふる山を安全を確認してドアを開けるおじさん、その姿が印象的だ。

保線係

毎日、電車が何千両も通るから線路がゆがんでしまうこともある。すると、乗り心地が悪くなったり、脱線や重大事故につながる。こうしたことを防ぐために、レールやマクラギが正常かどうか点検をする。電車が走り終わった深夜にも線路の手入れも行っている。

ぼくが眠っている間に働いている人がいる。事故ロケッパシりました。電車が安全に走るためには、しっかりと線路が保たれていることが、保線係の仕事は、とても大切なことだと思います。

整備士

人が具合が悪くなると病院に行くように、電車にも病院がある。そこでは車体と台車を分け、色々な機械の部分を取り外し、バラバラにして、それぞれ専門の整備士が検査・修理を行っている。このような検査を「全ばん検査」といい、それとは別に日ごとのドアやブレーキなどの定期検査も行っている。

ぼくの家にいる車も時々車屋さんに見てもらっています。そのときに悪い所があると直してもらっているのが、電車も同じだと思います。



電車を動かす力

電力会社から変電所で電車を動かすための電気に変えて、架線（糸線）の上にある電線（パンタグラフ）を通じて電車に送られる。



電車の動力は、電気で変電所から架線まで電気が送られてくる。これは、動くことのできる。また、電車が安全に走行するためには、信号機や踏切もちゃんと作動している必要がある。電車が安全に走るためには、架線や変電所、踏切や信号機を定期的に確認している。

未来のぼくのパートナー!! 車掌

電車のドアの開け閉めや車内のアナウンスを担当している。昔々、手動操作もしていた。小田急線は10両編成の電車も40両編成の電車の開け閉めを自分で行うので乗降客がはさまらないように注意深く操作を行っている。運転士と同様、沢山の人が安全に電車を利用できるように、ホームから見守っている。

ホームで手をふるおじさん、ふりふり揺れる車掌さんが大好きです。

あつがれの運転士

電車のハンドル、ブレーキを操作する重要な仕事。小田急線全線にある約1500カ所の信号機をひとつひとつ声を出して正確に、安全に確実に目的地まで届けている。運転士は国家試験で「動力車操縦者運転免許」を持たなければなりません。車と同じで免許がいると知り、ますます運転士になりたいと思いました。

感想 心

今回おじさんのことを調べてみて、電車を動かすのには沢山の人が関わっていることが分かりました。線路の下のおじさんという言葉を聞いたことがありません。まさか、その通りだと思いません。色々分かったけれど、それでも、ぼくは、運転士になりたいと思いました。

司令所



司令所には運輸司令所と電気司令所がある。運輸司令所は、小田急線すべての様子を監視している。万一、事故やトラブルが起きたときは、司令員が運転士や車掌・駅などに伝える。沢山の信号機や踏切の表示やポイントの切り替えもコントロールしている。電気司令所はすべての電車に、しっかりと電気が送られているかを見守っている。



ぼくのお気に入り撮りスポット



おまけ 回送電車を発見!! 点検におじさんがいるかな?